

ご自分が神と同じであったことをお捨てになつたのです。神である方が神をお捨てになつたのです。それは全く人間となられるためであつたと歌うのです。まさに、それは人間となられるためでした。それはただそうなさつたと言うのではなく、そうなさつた動機、どうしてもそうされなければならない理由がありました。それは、神が情熱をもつて、愛されるお方だからです。情熱をもつて向き合つてくださるからご自分を捨ててまで人間となられたのです。

さらに、「自分を無にし、僕、つまり奴隷となられた」と語ります。つまり、人と同じになられたということは奴隷となられたのだと言われています。実は、人は無自覚な奴隷となつています。生まれた時と場所に縛られ、死で生涯を終ることに縛られています。人は初めから、死と運命の奴隷になつていられるのです。主はその人に仕える奴隷の姿となられたのです。

むしろ、人は主人になろうとしています。満たされること、上に立つことを望みます。しかし、主は徹底的に仕える僕となられたという事です。クリスマスはこれほどに神が低くなられた出来事です。そして、神がこのように低くなられたことで、歴史自体に意味を持たせる刻印になりました。神がわたしたちの時間に、はっきりしたしるしを付けてくれました。そうでなければ歴史は時の流れて行く川に過ぎないものです。人は生まれ、人は死に、それに際限のないのです。クリスマスはこの歴史に重要な意味をもた

らしました。わたしたちの世界も歴史も、ここに神が僕として来られたという意味を持つたのです。低くなれることで神が現実となられました。神話ではなく歴史の現実となられたのです。

クリスマスには五節の「キリスト・イエスにも見られるもの」がはつきりました。ルカによる福音書二章六節七節に「ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。」と記されています。皇帝の命令に翻弄され、泊まるどころがなく飼い葉桶に寝かされていた姿です。

そこに「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。(二・一一)あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。(二・一二)すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」と天使たちの讚美が降り注いでいるのです。

低くなられた所に気高さを見ることができません。人の求める、栄光あるもの、素晴らしさのみじんもないのです。しかし、それはわたしたちには、最も安心し、心開いて見つめることのできる姿です。

この手紙には「人間の姿で現れ、へりくだつて、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」と記されています。

その方は十字架の死に至るまで従順でした。飼い葉桶と十字架に低くなられたお姿があります。傷つけることをせず傷を癒されるお方、低いものを高められるお方です。低いところをご自分のところとされたからです。

この手紙は「このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、『イエス・キリストは主である』と公に宣べて、父である神をたたえるのです。」と語ります。キリストはこの低さのゆえに引き上げられ、最も高い名を与えられ、礼拝されるお方です。既に主の誕生に羊飼いたちが神を崇め讚美したように。この低さこそ主の高さを表すお姿です。泊まる宿もなく人の持つ高貴なものはなく、ただ布に包まれて寝かせられている。これは誰にも共有することのできる姿です。一つ思いになることができるお姿です。このお姿に、わたしたちが自分を取り戻し、対立と分裂が克服され、一つとされる道があります。

(一二月八日 公同礼拝)

一〇月講壇一覽

第一主日(一〇月六日) 教会創立記念礼拝

「教会の土台」 高橋和人牧師

マラキ書 三・一〜三

コリント一 三・一〇〜二三